

# 2020年度(2020年4月~2021年3月)最新データによる 医学協会の日帰りドック&1日ドックの集計

## 人間ドック・がん 健診の結果から

企画部 部長代理 鈴木 貴幸

平均年齢  
**54.9歳**  
人間ドックの  
リピーター率  
**75.9%**

2020年度(2020年4月~2021年3月までの1年間)の医学協会では人間ドックを受けられた総受診者数は、55,966人でした。男女比は、男性61.4%・女性38.6%でした。また、50代の受診率は31.8%で一番多く、続いて40代の26.7%、60代の25.0%と40~50代で全体の3/2を占めています。

また、総合判定結果での有所見者(C・D2・D1)の割合は、特定健診の対象となる40歳の時点で、9割の方に有所見があるという結果でした。

### 性別・年齢別受診者数(2020年4月~2021年3月)

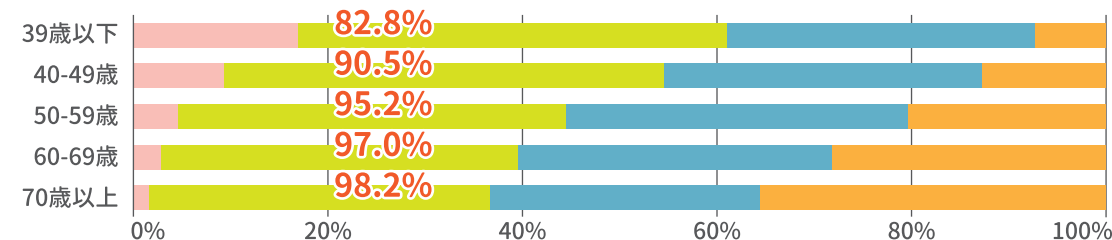
	39歳以下	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	全体	割合
男性	2,392	9,128	10,703	8,609	3,508	34,340	61.4%
女性	1,396	5,800	7,118	5,371	1,941	21,626	38.6%
全体	3,788	14,928	17,821	13,980	5,449	総受診者数 55,966	
割合	6.8%	26.7%	31.8%	25.0%	9.7%		

※日帰りドック・一泊ドックの集計(簡易ドック・家族ドックは除く)

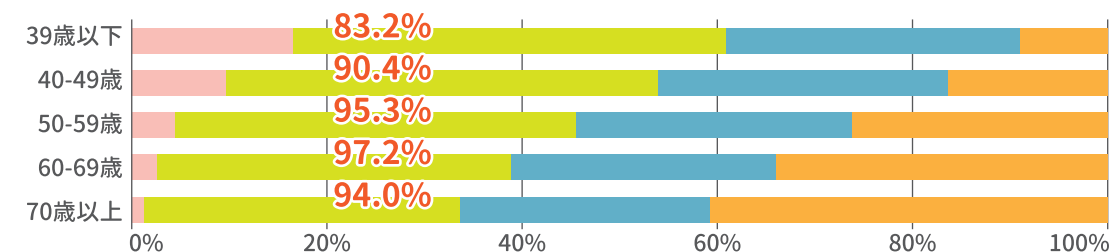
### 総合判定結果 有所見者(C・D2・D1)割合

A+B(異常なし) C(要経過観察) D2(要精検) D1(要医療)

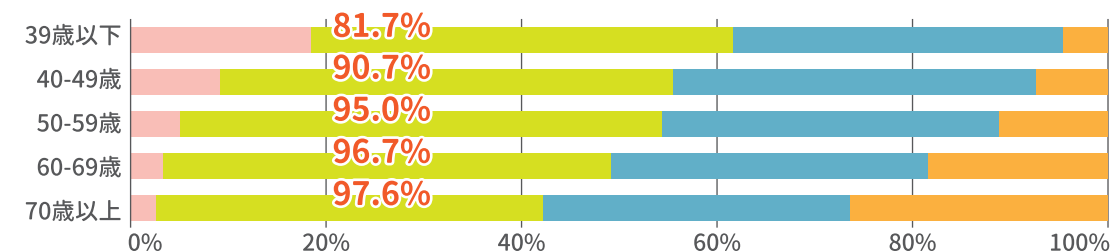
全体(男女合計) %はC判定以上の有所見者の割合です。40歳の時点で、90%の受診者に所見があります。



男性 年代があがるにつれて、D1(要医療)の割合がふえています。



女性 どの年代でもほぼ同じ割合でD2(要精検)の所見があります。



## 所見別結果 有所見者(C・D2・D1)割合の上位項目

順位 (有所見率)	所見分類	有所見者数		有所見者率	
		男性	女性	男性	女性
1	糖尿病	16,591	5,911	48%	27%
2	脂質異常症	13,659	6,893	40%	32%
3	肥満	15,400	4,459	45%	21%
4	超音波所見(肝臓)	13,829	5,549	40%	26%
5	肝機能障害	10,411	3,141	30%	15%
6	高血圧	9,657	3,380	28%	16%
7	胃部X線所見	4,017	3,940	12%	18%
8	子宮所見	0	2,784		13%
9	心電図異常所見	4,636	2,366	14%	11%
10	甲状腺腫瘍・疑い	2,562	3,356	7%	16%
11	腎機能低下	3,698	1,962	11%	9%
12	超音波所見(胆のう)	2,935	1,492	9%	7%
13	やせ型	1,190	2,800	3%	13%
14	貧血	1,125	2,522	3%	12%
15	尿蛋白陽性	2,693	765	8%	4%

所見別結果からの有所見割合の上位は、男性が①糖尿病②肥満③脂質異常症・超音波(肝臓)、女性は①脂質異常症②糖尿病③超音波(肝臓)でした。

男性
1.糖尿病
2.肥満
3.脂質異常症、 超音波(肝臓)

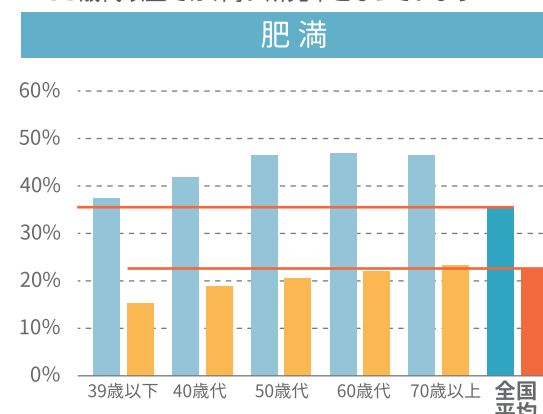
女性
1.脂質異常症
2.糖尿病
3.超音波(肝臓)

※男性、女性ともに糖尿病が上位となっています。

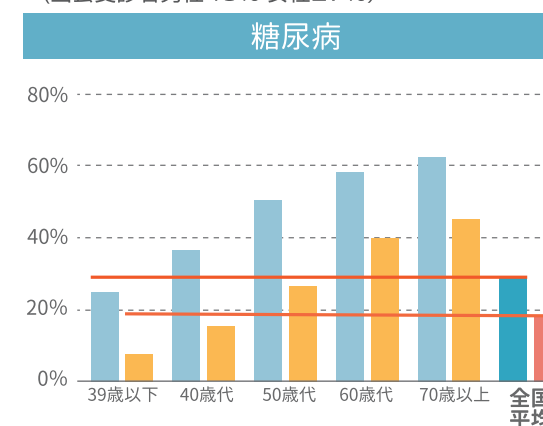
◎肺活量の所見(2019年:男性6,982/女性2,077)  
2020年からは新型コロナウイルス感染予防対策のため、中止しています。

## 生活習慣病関連項目の異常頻度: 有所見者(C・D2・D1)割合、男女別のグラフです。

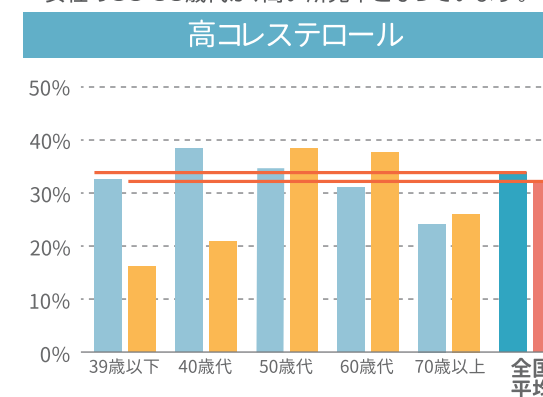
※男性の「肥満」は、全年齢層で全国平均を上回り、50歳代以上では、高い所見率となっています



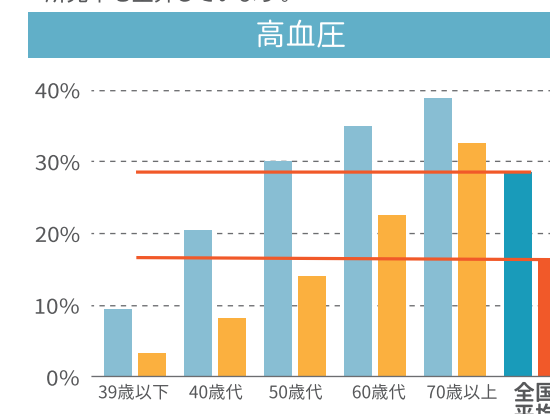
※男女とも50歳代以上で全国平均を大きく上回っています。(当会受診者男性48%・女性27%)



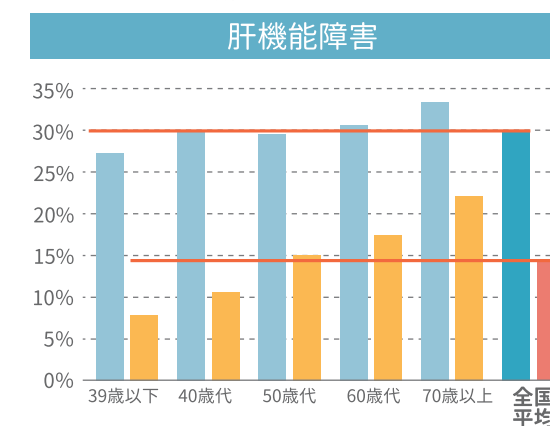
※「高コレステロール」では、男性の40歳代、女性の50・60歳代が、高い所見率となっています。



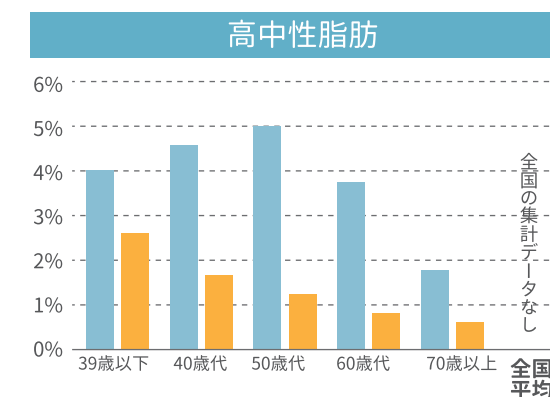
※「高血圧」は、男女とも年齢とともに、所見率も上昇しています。



※女性の所見が60歳代から全国平均を上回ります。



※「中性脂肪」では、男性の40・50歳代が高くなっています。



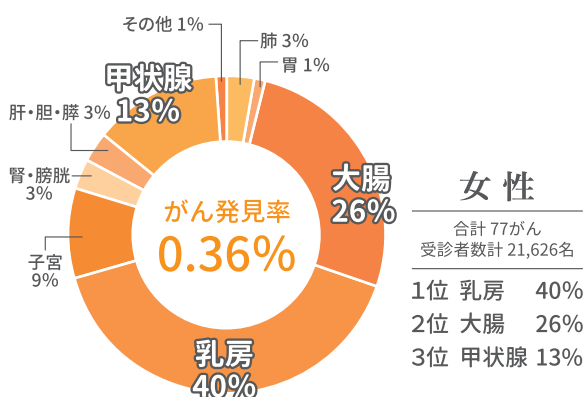
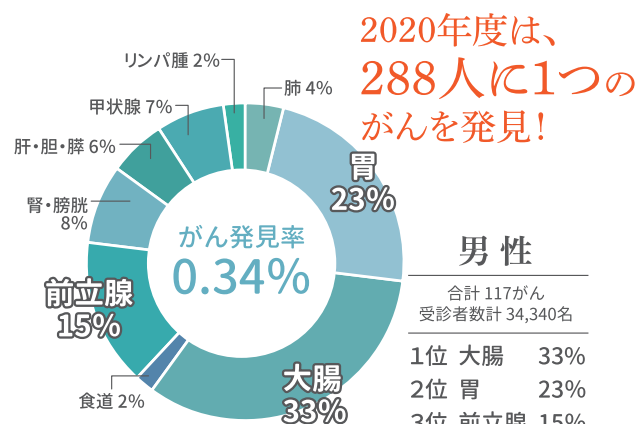
※全国平均は、(公社) 日本人間ドック学会「人間ドックの現況」2015年改変

## 2020年度 当会の人間ドックで発見したがん (2021年9月末時点で集計)

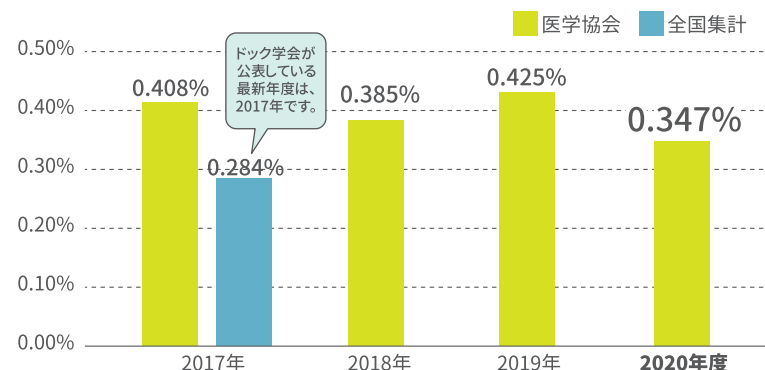
年齢	男性			女性		
	受診者数	がん症例		受診者数	がん症例	
		発見数	発見率		発見数	発見率
39歳以下	2,392	2	0.08%	1,396	2	0.14%
40-49歳	9,128	9	0.10%	5,800	20	0.34%
50-59歳	10,703	24	0.22%	7,118	23	0.34%
60-69歳	8,609	55	0.64%	5,371	22	0.41%
70歳以上	3,508	27	1.77%	1,941	10	0.52%
合計	<b>34,340</b>	<b>117</b>	<b>0.34%</b>	<b>21,626</b>	<b>77</b>	<b>0.36%</b>

## 医学協会が発見したがん症例 (2020年度人間ドック実績)

	男性	女性	合計
受診者数	34,340	21,626	55,962
肺	5	2	7
胃	27	1	28
大腸	39	20	59
乳房		31	31
子宮		7	7
食道	2	1	3
前立腺	18		18
白血病	0	0	0
腎臓	3	1	4
肝臓	2	0	2
脾臓	4	1	5
胆のう	1	1	2
甲状腺	8	10	18
膀胱	6	1	7
リンパ腫	2	0	2
その他	0	1	1
計	117	77	194



## がん発見率全国集計との比較



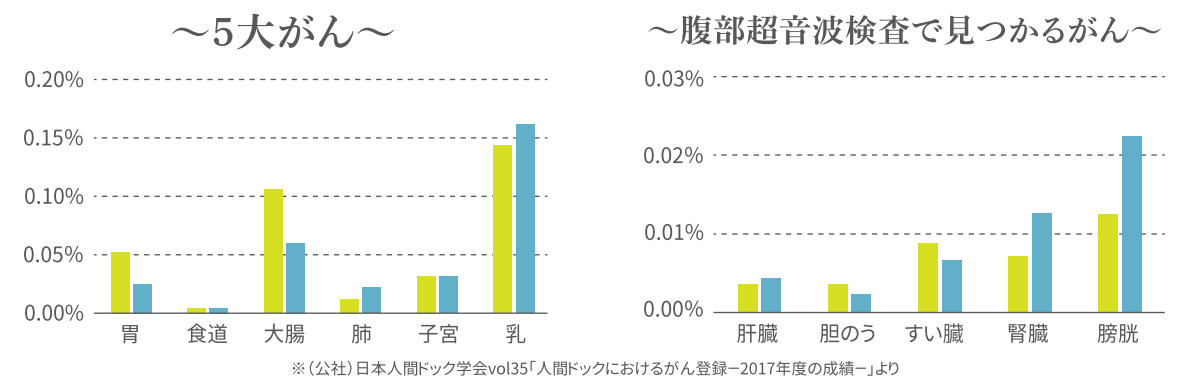
2020年度の  
医学協会がん発見率は  
全国平均の  
**1.22倍!!**  
高い発見率を  
誇ります!!

がん発見率の検証(人間ドックの実績)「日本人間ドック学会」(2017年度集計)との比較

**2020年度は 当会:0.347%(194件/55,966名)**

全国:0.284%(5,071件/1,783,388名:2017年度) ※(公社)日本人間ドック学会vol35「人間ドックにおけるがん登録-2017年度の成績-」より

## 部位別がん発見率:全国集計との比較



## 医学協会の 品質管理システム 精度向上への体制

健診機関としての  
医学協会の使命は、  
検診を実施するだけでなく、  
検診後にその診断が正当であったか、  
まで追いつけていることです。

